

(2) 予測

1) 予測の手法

切土工等又は既存の工作物の除去, 工事施工ヤードの設置及び工事用道路の設置, 道路(地表式又は掘割式, 嵩上式, 地下式) の存在に係る動物の予測は, 「道路環境影響評価の技術手法(平成 24 年度版)」(平成 25 年 3 月, 国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所) に基づき行った。

ア. 予測手法

切土工等又は既存の工作物の除去, 工事施工ヤードの設置及び工事用道路の設置, 道路(地表式又は掘割式, 嵩上式, 地下式) の存在と重要な種の生息地及び注目すべき生息地の分布範囲から, 生息地が消失・縮小する区間及び重要種等の移動経路が分断される区間並びにその程度を把握した。

次に, それらが重要な種等の生息に及ぼす影響の程度を科学的知見や類似事例を参考に予測した。

なお, 改変区域及び消失区域については, 図 11.8.1-10 に示すとおりである。

イ. 予測地域

予測地域は, 調査地域のうち, 動物の生息の特性を踏まえ, 重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域(都市計画対象道路事業実施区域から概ね 250m の範囲及び福岡空港北側遊水地全域) とした。

ウ. 予測対象時期等

予測対象時期等は, 動物の生息の特性を踏まえ, 重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期とした。

工事の実施による濁りの最大発生時期, 切土工等又は既存の工作物の除去, 工事施工ヤード等の設置及び工事用道路の設置等による直接改変は全工程とした。

土地又は工作物の存在及び供用時は, 道路が完成して一定期間が経過した時期とした。

エ. 予測対象種等

重要な種は, 既存資料調査と現地調査により確認したが, 予測地域に生息する動物の最新情報を把握した現地調査結果を優先することとし, 現地調査で確認された重要な種を予測対象種とした。

予測対象とする動物の重要種及び影響要因の選定を表 11.8.1-17 に示す。

なお, 注目すべき生息地については, 既存資料調査及び現地調査で確認されていないため, 予測を行っていない。

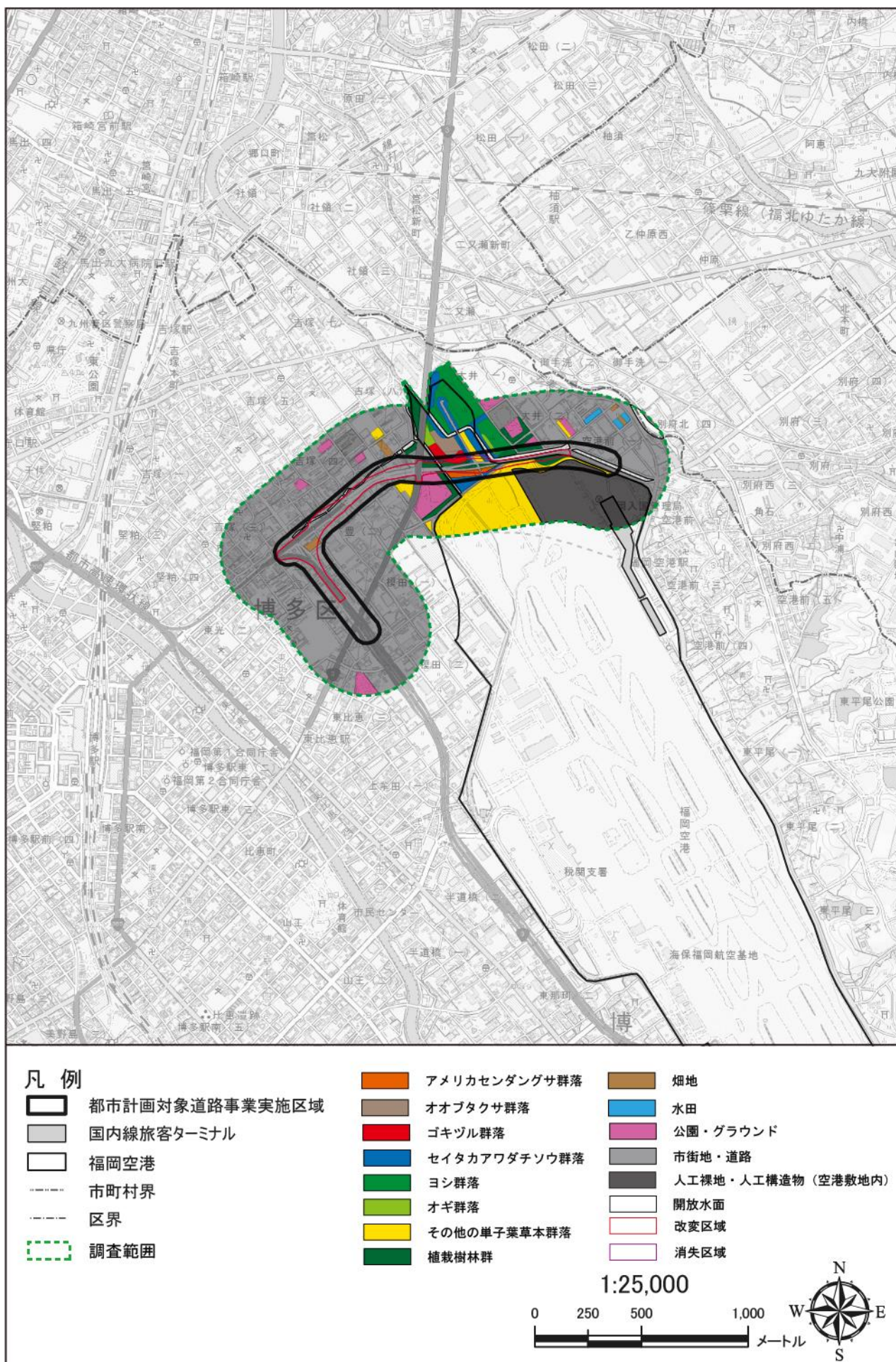


図 11.8.1-10 改変区域及び消失区域位置図

表 11.8.1-17(1) 動物の予測対象

分類	種和名	影響要因	
		工事の実施	土地又は工作物の存在及び供用
哺乳類	イタチ属 (ニホンイタチ)	○ 直接改変	○ 直接改変
鳥類	ササゴイ	○ 直接改変	○ 直接改変
	ミサゴ	○ 直接改変	○ 直接改変, 移動経路の分断
	ハヤブサ	○ 直接改変	○ 直接改変
	ヒクイナ	○ 直接改変	○ 直接改変
	オオヨシキリ	○ 直接改変	○ 直接改変
	コサメビタキ	○ 直接改変	○ 直接改変
爬虫類	ニホンスッポン	○ 生息環境の質的变化	—
昆虫類	オモナガコミズ ムシ	○ 直接改変, 生息環境の質的变化	○ 直接改変, 地下水位の変動
	スゲドクガ	○ 直接改変	○ 直接改変
	カンムリセスジ ゲンゴロウ	○ 直接改変, 生息環境の質的变化	○ 直接改変, 地下水位の変動
	ナガマルチビゲ ンゴロウ	○ 直接改変, 生息環境の質的变化	○ 直接改変, 地下水位の変動
	コガムシ	○ 直接改変, 生息環境の質的变化	○ 直接改変, 地下水位の変動
	チビマルガムシ	○ 直接改変, 生息環境の質的变化	○ 直接改変, 地下水位の変動
	オオサカスジコ ガネ	○ 直接改変	○ 直接改変
	ヤマトアシナガ バチ	○ 直接改変	○ 直接改変
	ネジロハキリバ チ	○ 直接改変	○ 直接改変
	ムナカタハキリ バチ本土亜種	○ 直接改変	○ 直接改変

注 1) 「○」: 影響が及ぶ可能性があるもの。

「—」: 影響が及ぶ可能性がないもの。

注 2) 工事の実施 (建設機械の稼働, 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行)

注 3) 土地または工作物の存在及び供用 (道路の存在)

表 11.8.1-17(2) 動物の予測対象

分類	種和名	影響要因	
		工事の実施	土地又は工作物の存在及び供用
魚類	ニホンウナギ	○ 直接改変，生息環境の質的变化	○ 直接改変
	ドジョウ	○ 直接改変，生息環境の質的变化	○ 直接改変，地下水位の変動
	アユ	○ 生息環境の質的变化	—
	ミナミメダカ	○ 直接改変，生息環境の質的变化	○ 直接改変，地下水位の変動
	カワアナゴ	○ 直接改変，生息環境の質的变化	○ 直接改変，地下水位の変動
	ウキゴリ	○ 生息環境の質的变化	—
底生動物	ミズゴマツボ	○ 直接改変，生息環境の質的变化	○ 直接改変，地下水位の変動
	コシダカヒメモノアラガイ	○ 直接改変，生息環境の質的变化	○ 直接改変，地下水位の変動
	モノアラガイ	○ 直接改変，生息環境の質的变化	○ 直接改変
	ナガオカモノアラガイ	○ 直接改変，生息環境の質的变化	○ 直接改変，地下水位の変動
	ヤマトシジミ	○ 生息環境の質的变化	—
	イトメ	○ 直接改変，生息環境の質的变化	○ 直接改変，地下水位の変動
	ベンケイガニ	○ 生息環境の質的变化	—
	タイワンヒライソモドキ	○ 生息環境の質的变化	—

注 1) 「○」：影響が及ぶ可能性があるもの。

「—」：影響が及ぶ可能性がないもの。

注 2) 工事の実施（建設機械の稼働，資材及び機械の運搬に用いる車両の運行）

注 3) 土地または工作物の存在及び供用（道路の存在）

2) 予測結果

各種の予測結果の詳細について表 11. 8. 1-18(1)～(32)に示す。

表 11. 8. 1-18(1) 重要な動物の予測結果（イタチ属（ニホンイタチ））

項 目		内 容	 ニホンイタチ 出典：「日本の哺乳類[改訂版]」 (1994 年 12 月 東海大学出版会)
選定基準		福岡県 RDB (NT), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		ネコ目 イタチ科 頭胴長は雄 30～37cm, 雌 20～22cm, 尾長は雄 12～16cm, 雌 8～9cm。	
分布		本州, 四国, 九州で, 北海道や伊豆諸島, 奄美大島などネズミ駆除の目的で人為的に持 ち込まれた地域も多い。本種はホンドイタチ <i>Mustela itatsi itatsi</i> , コイタチ <i>Mustela itatsi sho</i> (屋久島と種子島に生息) の 2 亜種に区分さ れる。県内では, 那珂川町, 大野城市, 福岡 市, みやこ町に分布する。	
生態	採餌	鳥, ネズミ, カエル, 魚などの小動物を好んで食べる。	
	繁殖	繁殖期は, 九州では年に 2 回あり, 1 回の出産の産仔数は 1 - 8 匹で, 平均は 3 - 5 匹。	
予測地域における 確認状況		現地調査結果では, 春季, 夏季及び秋季調査において, 市街地 (足跡) 及び福 岡空港北側遊水地 (無人撮影法) で確認された。	
予測 結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置, 道路の存在により, 生息環境の一部が改変される。 しかし, 工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境で ある湿地(遊水地)等に占める面積割合は 3.0%と小さい。工事施工ヤード等の設 置箇所は, 一時的な影響が生じると考えられるが, 周囲の経年的な復元に伴い, 徐々に回復するものと考えられる。また, 道路の存在によって消失する湿地(遊 水地)等の面積割合は 2.1%とわずかである。 したがって, 本種の主な生息環境である湿地等の環境は周辺に広く残されるこ とから, 直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	移動経路 の分断	道路の存在により, 移動経路の分断が発生する可能性があるが, 現地調査結果 によると, 本種の確認箇所は市街地及び福岡空港北側遊水地であり, 市街地では 既に既存構造物及び建物が存在し, 福岡空港北側遊水地付近における都市計画対 象道路は地下式構造である。 したがって, 新たな構造物の出現による移動経路の分断が, 本種の生息に及ぼ す影響は極めて小さいと予測される。	

[出典：「福岡県希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2001－」(平成 13 年, 福岡県)
「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011 植物群落・植物・鳥類・
哺乳類－」(平成 23 年, 福岡県)]

表 11.8.1-18(2) 重要な動物の予測結果（ササゴイ）

項 目		内 容	 ササゴイ
選定基準		福岡県 RDB (NT), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		コウノトリ目 サギ科 全長：約 50 cm, 翼開長：約 75cm	
分布		夏鳥として本州以南に渡来し, 河川, 湖沼, 水田, 池等に生息する。北海道では迷鳥, 本州中部以南ではまれに冬もとどまり, 奄美諸島以南では越冬する。	
生態	採餌	食性は動物食で, 魚類やカエル, 水生昆虫を餌とし, 水辺で待ち伏せをして捕食する。一部個体群では木の葉を水面に落とし, 魚をおびき寄せて捕食する。	
	繁殖	繁殖期にはつがいで生活し, 河畔林や市街地の社寺林, 街路樹に単独もしくは小規模な集団で営巣する。その際, 他のサギ類と混合コロニーを作ることはない。巣は木の枝を積み重ねた皿形で, 産卵期は 5~6 月, 卵数は 3~6 個, 抱卵日数は 21~25 日程度である。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では, 春季, 初夏季, 夏季及び秋季調査において, 宇美川及び堅粕新川で確認された。宇美川周辺では小魚をくわえて飛翔する姿が確認されており, 宇美川や堅粕新川に生息するカワムツやオイカワ等を捕食していると考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置, 道路の存在により, 生息環境の一部が改変される。しかし, 工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である河川・湿地(遊水地)等に占める面積割合は 4.3%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は, 一時的な影響が生じると考えられるが, 周囲の経年的な復元に伴い, 徐々に回復するものと考えられる。また, 道路の存在によって消失する河川・湿地(遊水地)等の面積割合は 3.5%とわずかである。 したがって, 本種の主な生息環境である河川・湿地等の環境は周辺に広く残されることから, 直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典:「日本の野鳥 650」(平成 27 年, 平凡社)

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」(平成 8 年, 山と溪谷社)]

表 11.8.1-18(3) 重要な動物の予測結果（ミサゴ）

項 目		内 容	 ミサゴ
選定基準		環境省 RL (NT), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		タカ目 タカ科 全長：約 60 cm, 翼開長：約 160 cm	
分布		日本では九州以北で繁殖し、北海道では夏鳥。福岡県内には海岸部のほぼ全域に周年生息し冬季は個体数が増えるが、繁殖の報告は少ない。	
生態	採餌	ボラ、スズキ、トビウオ、イワシ等の魚類だけを食べる。水面を高くゆっくり飛び回り、魚を見つけると停空飛行で狙いをつけ、翼をすばめて急降下し、水面近くで両脚をのばして大きな爪を開き魚をめがけて突っ込む。水面に近い魚を捕らえるだけでなく、より深いところの魚に対しては身体を完全に水没させて捕獲する。	
	繁殖	繁殖期は 4～7 月、年に 1 回、一夫一妻で繁殖する。岩棚等に流木や枯れ枝を積んで、かなり大きな皿形の巣を雌雄共同でつくり、同じつがいは何年も同じ巣を修復しながら利用することが多い。1 巣卵数は 2～3 個、1～3 日おきに 1 卵ずつ産卵し、抱卵は雌雄交替で 34～40 日行う。育雛期間は 49～57 日、雌は雛への給餌と巣の警戒を主な仕事とし、雄は狩りをして、餌を雌に渡す。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では、冬季及び秋季調査において、福岡都市高速空港線上空及び宇美川、堅粕新川上空を飛んでいる姿が確認された。秋季確認時には餌を運んでいる姿が確認されており、宇美川や堅粕新川等周辺河川を狩場としていると考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、採餌場である河川等の一部が改変されるが、同様の河川環境は都市計画対象道路の上下流にも広く分布する。また、主な生息環境（繁殖場）である岩礁・樹林地等は改変されない。 したがって、本種の主な生息環境である河川・岩礁・樹林地等の環境は周辺に広く残されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	移動経路の分断	豊ジャンクションにおける最大約 25m 高さの構造物の出現により、移動経路の分断が発生する可能性がある。現地調査結果によると、豊ジャンクション付近での飛翔が 1 回確認されたが、主な確認箇所は福岡空港北側遊水地及び河川周辺であることや本種の主な生息環境は岩礁・樹林地であることから、豊ジャンクションを横断する個体数は少ないと考えられる。また、既に豊ジャンクションには約 15m 高さの構造物や中高層の建物が存在し、主に確認された福岡空港北側遊水地及び河川付近における都市計画対象道路は地下式構造である。 したがって、新たな構造物の出現による移動経路の分断が、本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典：「日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版」(平成 16 年、文一総合出版)
「福岡県希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2001－」(平成 13 年、福岡県)
「原色日本野鳥生態図鑑 <陸鳥編>」(平成 7 年、保育社)]

表 11.8.1-18(4) 重要な動物の予測結果（ハヤブサ）

項 目		内 容	 ハヤブサ
選定基準		保存法(国内), 環境省(VU), 福岡県 RDB(VU), 福岡市配慮指針 2016(掲載種)	
形態		タカ目 ハヤブサ科 全長:雄約 38cm, 雌約 51cm, 翼開長:84~120cm	
分布		日本では九州以北で繁殖するほか, 冬は全国に飛来する。広い空間で狩りをするため, 海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面, 広大な水面のある地域や広い草原, 原野等を生活域にする。	
生態	採餌	獲物はほとんどがヒヨドリ級の中型の小鳥で, まれに地上でネズミやウサギを捕える。崖の上や見晴らしのよい木や杭等の止まり場所から空間を見張り, 鳥が飛んでいるのを見つけると飛び立ち, 獲物より高い位置に待機して, 飛翔中の鳥の上空から翼をすばめて急降下して脚で蹴落とす。	
	繁殖	繁殖期は 3~4 月, 一夫一妻で繁殖する。海岸や海岸に近い山地の断崖の岩棚の窪みに, 脚で砂泥や草の根等をかき出して産座をつくり直接産卵する。1 巣卵数は 3~4 個, 2~3 日ごとに 1 卵ずつ産卵する。抱卵は初卵産卵日から始まり, 主に雌が行う。育雛期には雌雄とも雛に給餌する。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では, 冬季調査において, 遊水地内で飛翔する成鳥 1 個体が確認された。確認個体は遊水地内に群れていたムクドリを追いかけ, ハンティングしようとしていたが, 捕獲できず, 南へ飛び去った。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置, 道路の存在により, 生息環境の一部が改変される。しかし, 工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である草原・湿地(遊水地)等に占める面積割合は 5.6%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は, 一時的な影響が生じると考えられるが, 周囲の経年的な復元に伴い, 徐々に回復するものと考えられる。また, 道路の存在によって消失する湿地(遊水地)等の面積割合は 3.9%とわずかである。 したがって, 本種の主な生息環境である草原・湿地等の環境は周辺に広く残されることから, 直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典:「日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版」(平成16年, 文一総合出版)
「原色日本野鳥生態図鑑 <陸鳥編>」(平成7年, 保育社)]

表 11.8.1-18(5) 重要な動物の予測結果（ヒクイナ）

項 目		内 容	
選定基準		環境省 RL (NT), 福岡県 RDB (NT), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		ツル目 クイナ科 全長：約 20cm, 翼開長：約 40cm	
分布		日本には夏鳥として渡来し, ほぼ全国的に繁殖する。本州中部以南では越冬するものもいる。	
生態	採餌	湿地を歩いたり泳いだりしながら, 昆虫, クモ, カエル, エビ, 小魚等をついばむ。植物質ではタデ科, イネ科, キク科等の草の種子も食べる。	ヒクイナ
	繁殖	繁殖期は 5～8 月, 年 1～2 回一夫一妻で繁殖すると考えられる。湖沼, 河川, 水田の水辺やヨシ原等の湿地に巣をつくるが, 低木の低い枝に巣をつくることもある。イネ科植物, ヨシ, スゲ類の葉や茎を折り曲げて皿型の巣をつくる。1 巣卵数は 5～9 個で通常は 8 個の例が最も多い。単独あるいはつがいで生活し, 家族以外群れをつくることはなく, 繁殖地では, 一定範囲をなわばりとして構える。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では, 冬季, 初夏季及び夏季調査において, 蒲生川で生息が確認された。本種が確認された蒲生川は, 流量が少なく湿地状で, 身を隠す植物も繁茂しており, 本種の生息に適した環境となっていた。本種は周辺の水路や草地を利用し, 生息しているものと考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置, 道路の存在により, 生息環境の一部が改変される。しかし, 工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である湿地(遊水地)等に占める面積割合は 3.0%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は, 一時的な影響が生じると考えられるが, 周囲の経年的な復元に伴い, 徐々に回復するものと考えられる。また, 道路の存在によって消失する湿地(遊水地)等の面積割合は 2.1%とわずかである。 したがって, 本種の主な生息環境である湿地等の環境は周辺に広く残されることから, 直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典：「原色日本野鳥生態図鑑＜水鳥編＞」(平成 7 年, 保育社)
「日本の鳥 550 水辺の鳥」(平成 13 年, 文一総合出版)]

表 11.8.1-18(6) 重要な動物の予測結果（オオヨシキリ）

項 目		内 容	 オオヨシキリ
選定基準		福岡県 RDB (NT), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		スズメ目 ウグイス科 全長：約 20cm	
分布		夏鳥として九州以北の河口，河川，湖沼， 休耕田等のヨシ原等に生息する。	
生態	採餌	ヨシ原を茎から茎へと移動しながら昆虫を捕食し，飛んでいる昆虫をフライングキャッチすることもある。	
	繁殖	オスはヨシ原や低木の梢で盛んにさえずり，夜間もさえずり続けることがある。メスはオスより 1 週間から 10 日遅れて渡来し，オスとつがいになるが，一夫一妻の場合と一夫多妻の場合がある。巣は数本のヨシに，またがって作られ，イネ科植物の葉や茎を主材料にしたお椀型をしている。産卵期は 5～8 月，卵数は 4～6 個，抱卵日数は 12～14 日，巣立ちまでの日数は 14 日程度である。	
予測地域における 確認状況		現地調査結果では，春季，初夏季及び夏季調査において，遊水地内の高茎草地に生息が確認された。遊水地内には広範囲に渡って，ヨシやセイバンモロコシ等高茎草本が生育しており，本種にとって良好な環境であると考えられる。	
予測 結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置，道路の存在により，生息環境の一部が改変される。しかし，工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である湿地(遊水地)等に占める面積割合は 3.0%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は，一時的な影響が生じると考えられるが，周囲の経年的な復元に伴い，徐々に回復するものと考えられる。また，道路の存在によって消失する湿地(遊水地)等の面積割合は 2.1%とわずかである。 したがって，本種の主な生息環境である湿地等の環境は周辺に広く残されることから，直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典：「日本の野鳥 650」(平成 27 年，平凡社)

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」(平成 8 年，山と溪谷社)]

表 11.8.1-18(7) 重要な動物の予測結果（コサメビタキ）

項 目		内 容	 コサメビタキ
選定基準		福岡県 RDB (DD), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		スズメ目 ヒタキ科 全長：約 20cm	
分布		夏鳥として北海道から九州の平地から山地の落葉広葉樹林，針広混交林等に生息する。渡りの時期には河畔林や都市部の公園等でも確認される。	
生態	採餌	食性は動物食で，昆虫等を食べる。	
	繁殖	九州でも繁殖するが県内での観察記録はほとんどない。繁殖期には縄張りを形成し，落葉広葉樹林の高木の樹上に苔や樹皮をクモの糸で組み合わせた皿状の巣を作る。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では，秋季調査において，大井中央公園内の樹木に止まっている様子が確認された。周囲には生息環境となる落葉広葉樹は少ないことから，渡りの途中に休んでいるところを今回確認したものと考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置，道路の存在により，主な生息環境である樹林地（落葉広葉樹林，針広混交林）の改変はないことから，生息に影響を及ぼすものではないと予測される。	

[出典：「日本の野鳥 650」（平成 27 年，平凡社）

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」（平成 8 年，山と溪谷社）

「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2011 植物群落・植物・鳥類・哺乳類－」（平成 23 年，福岡県）]

表 11.8.1-18(8) 重要な動物の予測結果（ニホンスッポン）

項 目		内 容	 ニホンスッポン
選定基準		環境省 RL (DD), 福岡県 RDB (DD), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		カメ目 スッポン科 全長：130～180cm	
分布		北海道を除く全国に分布し、遺伝的に日本固有の種と中国大陆の種の2系統が生息しており、福岡県内ではどちらが分布しているのかは不明である。流れの緩やかな河川や湖沼等に生息する。日中は日光浴をしている姿が見られるが、警戒心が強く近づくとともに水の中に逃げ込む。	
生態	採餌	食性は主に肉食で貝類や甲殻類、水生昆虫等を捕食するが、飼育下では植物質を食べる。	
	繁殖	春から初夏に交尾し、交尾後2ヶ月ほど立ってから5～40個程度産卵する。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では、秋季調査において、魚類調査時に宇美川で生息が確認された。確認環境は流れが緩やかであり、本種にとって良好な生息環境であると考えられる。	
予測結果	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、工事の際には水環境の変化が生じる可能性があるが、本種が確認された箇所は影響範囲外であること、また、主な工事箇所の上流側や影響範囲外にも生息環境は広く分布する。 したがって、生息環境の質的变化が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典：「山溪ハンディ図鑑 日本のカメ・トカゲ・ヘビ」（平成23年，山と溪谷社）
「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成26年，福岡県）]

表 11.8.1-18(9) 重要な動物の予測結果（オモナガコミズムシ）

項 目		内 容	 オモナガコミズムシ
選定基準		福岡県 RDB (VU), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		カメムシ目 ミズムシ科 全長：約 5.5mm	
分布		平野部の浅い泥底の止水域に生息するが、 生息に適した環境に見える場所でも生息して いないことが多く、環境の変化に敏感な種と 考えられる。	
生態	採餌	泥底の表面の微小な藻類を食べると考えられている。	
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。	
予測地域における 確認状況		現地調査結果では、夏季調査において、遊水地内に 4 個体の生息が確認された。 遊水地内はヨシやセイバンモロコシ等高茎草が広がる湿地環境となっており、 本種の生息環境に適していると考えられる。	
予測 結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、生息環境の一部が改変される。 しかし、工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境で ある草原・湿地(遊水地)等に占める面積割合は 5.6%と小さい。工事施工ヤード 等の設置箇所は、一時的な影響が生じると考えられるが、周囲の経年的な復元に 伴い、徐々に回復するものと考えられる。また、道路の存在によって消失する湿 地(遊水地)等の面積割合は 3.9%とわずかである。 したがって、本種の主な生息環境である海岸域・草原等の環境は周辺に広く残 されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測され る。	
	生息環境の 質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、工事の実施により出現する裸地 等から降雨により濁水が発生し、主な生息環境である湿地等に流入する可能性が あるため、生息環境の変化が生じ、本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の 変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では、「11.6 地盤」の予測で示すとおり、 道路の存在（地下式）に伴い、地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位 が変動することにより、主な生息地である湿地(遊水地)への水の供給が不十分にな り、生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって、地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類
/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）]

表 11.8.1-18(10) 重要な動物の予測結果（スゲドクガ）

項 目		内 容	 スゲドクガ
選定基準		環境省 RL (NT)	
形態		チョウ目 ドクガ科 全長：約 31～40mm	
分布		北海道～本州の湿地に分布している。年 2 回 5～6 月と 8～9 月に出現する。	
生態	採餌	マツカサススキ（カヤツリグサ科），ヒメガマ（ガマ科），ヨシ（イネ科）等を食草としている。	
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では，夏季及び秋季調査において，北側遊水地南側に設置したライトトラップによって捕獲された。本種が確認された遊水地内はヨシやセイバンモロコシ等イネ科の高茎草が広がる湿地環境となっており，本種の生息環境に適していると考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置，道路の存在により，生息環境の一部が改変される。しかし，工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である草原・湿地（遊水地）等に占める面積割合は 5.6%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は，一時的な影響が生じると考えられるが，周囲の経年的な復元に伴い，徐々に回復するものと考えられる。また，道路の存在によって消失する湿地（遊水地）等の面積割合は 3.9%とわずかである。 したがって，本種の主な生息環境である海岸域・草原等の環境は周辺に広く残されることから，直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典：「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 2014 昆虫類」（平成 27 年，環境省）]

表 11.8. 1-18(11) 重要な動物の予測結果（カンムリセスジゲンゴロウ）

項 目		内 容	 カンムリセスジゲンゴロウ
選定基準		福岡県 RDB (VU), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		コウチュウ目 ゲンゴロウ科 全長：約 4.6～5.6mm	
分布		全国的に記録の少ない小型のゲンゴロウで、平地の水生植物の豊富な止水域に生息する。県内では 2000 年代になっていくつかの採集例があるが、安定した生息地はなく、個体数も少ない。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では、夏季調査において、遊水地北側に設置したライトトラップによって捕獲された。本種が確認された遊水地内はヨシやセイバンモロコシ等高茎草が広がる湿地環境となっており、本種の生息環境に適していると考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、生息環境の一部が改変される。しかし、工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である湿地(遊水地)等に占める面積割合は 3.0%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は、一時的な影響が生じると考えられるが、周囲の経年的な復元に伴い、徐々に回復するものと考えられる。また、道路の存在によって消失する湿地(遊水地)等の面積割合は 2.1%とわずかである。 したがって、本種の主な生息環境である湿地等の環境は周辺に広く残されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し、主な生息環境である湿地等に流入する可能性があるため、生息環境の変化が生じ、本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では、「11.6 地盤」の予測で示すとおり、道路の存在（地下式）に伴い、地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより、主な生息地である湿地(遊水地)への水の供給が不十分になり、生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって、地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)]

表 11.8.1-18(12) 重要な動物の予測結果（ナガマルチビゲンゴロウ）

項 目		内 容	 ナガマルチビゲンゴロウ
選定基準		福岡県 RDB (EN)	
形態		コウチュウ目 ゲンゴロウ科 全長：約 1.5～1.8mm	
分布		本州～九州に分布している。平地のごく浅い止水域で採集されることが多い。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では、夏季調査において、大井中央公園に設置したライトトラップで確認された。本種が確認された大井中央公園付近には遊水地があり、周辺の湿地環境を主な生息地としていると考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、生息環境の一部が改変される。しかし、工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である湿地(遊水地)等に占める面積割合は 3.0%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は、一時的な影響が生じると考えられるが、周囲の経年的な復元に伴い、徐々に回復するものと考えられる。また、道路の存在によって消失する湿地(遊水地)等の面積割合は 2.1%とわずかである。 したがって、本種の主な生息環境である湿地等の環境は周辺に広く残されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し、主な生息環境である湿地等に流入する可能性があるため、生息環境の変化が生じ、本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では、「11.6 地盤」の予測で示すとおり、道路の存在（地下式）に伴い、地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより、主な生息地である湿地(遊水地)への水の供給が不十分になり、生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって、地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）]

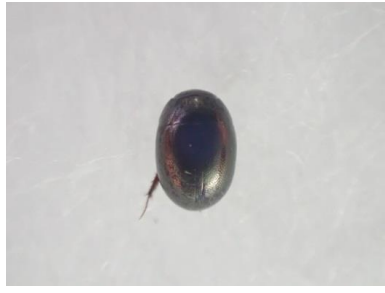
表 11.8.1-18(13) 重要な動物の予測結果（コガムシ）

項 目		内 容	 コガムシ
選定基準		環境省 RL (DD), 福岡県 RDB (VU), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		コウチュウ目 ガムシ科 全長：約 16～18mm	
分布		日本では北海道，本州，四国，九州に分布する。生息環境は，水深が浅い湿地的な場所や農薬使用の抑えられた水田，自然度が高く浅瀬が多いため池である。	
生態	採餌	本種の餌は，肉食性の幼虫が水生昆虫等，草食性の成虫が水草等である。	
	繁殖	繁殖地は，湿地やため池で，産卵は水草でつくったゆりかごのような卵のうを水面に浮かべ，その中にゼラチン状の物質を放出して行われる。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では，春季調査において，遊水地内の水路（St. 10）生息が確認された。本種は植物の豊富な止水域に生息することから，St. 10 の湿地環境を生息場として利用していることが考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置，道路の存在により，生息環境の一部が改変される。しかし，工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である湿地（遊水地）等に占める面積割合は 3.0%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は，一時的な影響が生じると考えられるが，周囲の経年的な復元に伴い，徐々に回復するものと考えられる。また，道路の存在によって消失する湿地（遊水地）等の面積割合は 2.1%とわずかである。 したがって，本種の主な生息環境である湿地等の環境は周辺に広く残されることから，直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では，工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し，主な生息環境である湿地等に流入する可能性があるため，生息環境の変化が生じ，本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では，「11.6 地盤」の予測で示すとおり，道路の存在（地下式）に伴い，地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより，主な生息地である湿地（遊水地）への水の供給が不十分になり，生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって，地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「日本動物大百科 10 昆虫類Ⅲ」日高敏隆監修（1998 年）]

「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）]

表 11.8.1-18(14) 重要な動物の予測結果（チビマルガムシ）

項 目		内 容	 チビマルガムシ
選定基準		福岡県 RDB (DD)	
形態		コウチュウ目 ガムシ科 全長：約 2mm	
分布		九州以南に分布している。極めて微小な種で、発見しづらい種である。水生植物の豊富な水質の良いため池から見つかることが多い。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では、夏季調査において、遊水地北側に設置したライトトラップで確認された。本種が確認された遊水地内はヨシやセイバンモロコシ等高茎草地が広がる湿地環境となっており、本種の生息環境に適していると考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、生息環境の一部が改変される。しかし、工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である湿地(遊水地)等に占める面積割合は 3.0%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は、一時的な影響が生じると考えられるが、周囲の経年的な復元に伴い、徐々に回復するものと考えられる。また、道路の存在によって消失する湿地(遊水地)等の面積割合は 2.1%とわずかである。 したがって、本種の主な生息環境である湿地等の環境は周辺に広く残されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し、主な生息環境である湿地等に流入する可能性があるため、生息環境の変化が生じ、本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では、「11.6 地盤」の予測で示すとおり、道路の存在（地下式）に伴い、地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより、主な生息地である湿地(遊水地)への水の供給が不十分になり、生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって、地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014-爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）]

表 11.8.1-18(15) 重要な動物の予測結果（オオサカスジコガネ）

項 目		内 容
選定基準		福岡県 RDB (VU)
形態		コウチュウ目 コガネムシ科 全長：約 10mm
分布		本州～九州に分布している。幼虫はため池や河川下流緩流部のヨシが生育する干潟の土中（汽水域を除く）で生活する。
		 オオサカスジコガネ
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。
予測地域における確認状況		現地調査結果では、夏季調査において、遊水地北側及び南側に設置したライトトラップによって捕獲された。本種が確認された遊水地内はヨシやセイバンモロコシ等高茎草が広がる湿地環境となっており、本種に適した生息環境になっていると考えられる。
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、生息環境の一部が改変される。しかし、工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である湿地(遊水地)等に占める面積割合は 3.0%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は、一時的な影響が生じると考えられるが、周囲の経年的な復元に伴い、徐々に回復するものと考えられる。また、道路の存在によって消失する湿地(遊水地)等の面積割合は 2.1%とわずかである。 したがって、本種の主な生息環境である湿地等の環境は周辺に広く残されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）]

表 11.8.1-18(16) 重要な動物の予測結果（ヤマトアシナガバチ）

項 目		内 容	 ヤマトアシナガバチ
選定基準		環境省 RL (DD), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		ハチ目 スズメバチ科 全長：約 15mm	
分布		北海道を除く日本全国に広く分布している。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	草本の葉裏や樹木の細枝，時には人家の軒下，壁にも営巣する。	
予測地域における 確認状況		現地調査結果では，夏季調査において，生息が確認された。本種が確認された環境は，空き地や市街地の水路の近く及び公園内等，植生が多い地点であった。	
予測 結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置，道路の存在により，生息環境の一部が改変される。しかし，工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である草地等に占める面積割合は 6.5%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は，一時的な影響が生じると考えられるが，周囲の経年的な復元に伴い，徐々に回復するものと考えられる。また，道路の存在によって消失する湿地(遊水地)等の面積割合は 4.6%とわずかである。 したがって，本種の主な生息環境である草地等の環境は周辺に広く残されることから，直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典：「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 2014 昆虫類」(平成 27 年，環境省)]

表 11.8.1-18(17) 重要な動物の予測結果（ネジロハキリバチ）

項 目		内 容	 ネジロハキリバチ
選定基準		福岡県 RDB (DD), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		ハチ目 ハキリバチ科 全長：約 15mm	
分布		本州中部以南に分布している。琉球列島では 5 月～9 月の複数回、本州では 8 月の年 1 回発生する。	
生態	採餌	ハマナタマメやイボタノキ、グンバイヒルガオ、シロバナセンダングサ等に訪花する。	
	繁殖	昆虫の脱出孔のような地上の既存孔筒に営巣する。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では、夏季調査において、任意採集によって確認された。遊水地内には、高茎植物が生えており、本種の隠れ場所として利用されていると考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、生息環境の一部が改変される。しかし、工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である草地等に占める面積割合は 6.5%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は、一時的な影響が生じると考えられるが、周囲の経年的な復元に伴い、徐々に回復するものと考えられる。また、道路の存在によって消失する湿地(遊水地)等の面積割合は 4.6%とわずかである。 したがって、本種の主な生息環境である草地等の環境は周辺に広く残されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年，福岡県)
「日本産ハナバチ図鑑」(文一総合出版，2014)]
「改訂しまねレッドデータブック 2014 動物編」(平成 26 年，島根県)]

表 11.8.1-18(18) 重要な動物の予測結果（ムナカタハキリバチ本土亜種）

項 目		内 容	 ムナカタハキリバチ本土亜種
選定基準		福岡県 RDB (NT)	
形態		ハチ目 ハキリバチ科 全長：約 15mm	
分布		山地・寒地系の種で，県内では，英彦山から記録されて以来記録がない。	
生態	採餌	ハギ類，イボタノキ等に訪花する。	
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では，春季調査において，任意採集によって確認された。本種は寒冷な山地に生息する種であり，確認された環境には本種が訪花する植物は見られない。調査で確認された個体は，別地点から移動中の個体と考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置，道路の存在により，主な生息環境である山地の草地等の改変はないことから，生息に影響を及ぼすものではないと予測される。	

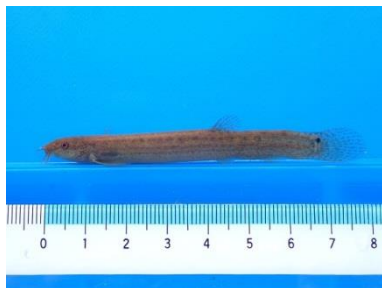
[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）
「日本産ハナバチ図鑑」（平成 26 年，文一総合出版）]

表 11.8.1-18(19) 重要な動物の予測結果（ニホンウナギ）

項 目		内 容	
選定基準		環境省 RL (EN), 福岡県 RDB (EN), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		ウナギ目 ウナギ科 全長：約 100cm	
分布		県内全域に分布する。一般に、海域で産卵、 川で成長する降河回遊型の生活史を営むとさ れる。	
生態	採餌	日中は石垣・土手の穴、底の泥の中等にひそみ、夜間に摂餌活動を開始する。 主として水生昆虫類、小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類等を捕食する。	ニホンウナギ
	繁殖	マリアナ海嶺で産卵し、葉形仔魚が海流に運ばれ、シラスウナギに変態して河 川に遡上する。	
予測地域における 確認状況		現地調査結果では、冬季、春季、夏季及び秋季調査において、宇美川 (St. 1, 2, 9), 吉塚新川 (St. 3), 堅粕新川 (St. 5) で生息が確認された。生息が確認さ れた地点は底質が泥あるいは砂泥であり、本種の生息環境に適していると考えら れる。博多湾から確認地点までは、縦断方向に連続性が確保されていることから、 遡上個体が当該地区を回遊経路及び生息場として利用されていることが考えら れる。	
予測 結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、本種の主な生息環境である河川 等の一部が改変されるが、河川横断構造物は設置しないため移動経路は確保され る。また、生息環境である河川環境は都市計画対象道路の上下流にも分布する。 したがって、本種の主な生息環境である河川等の環境は周辺に広く残されるこ とから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の 質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、「11.5 水質」の予測で示すとお り、工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し、主な生息環 境である河川等へ流入する可能性があるため、生息環境の変化が生じ、本種の生 息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚
類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」(平成 1 年, 山と溪谷社)]

表 11.8.1-18 (20) 重要な動物の予測結果（ドジョウ）

項 目		内 容	 ドジョウ
選定基準		環境省 RL (NT), 福岡県 RDB (VU), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		コイ目 ドジョウ科 全長：雄約 11 cm, 雌約 12cm	
分布		山間部から平野部まで広くみられ, 植物の豊富な浅い止水域に生息する。	
生態	採餌	微小な有機物を食べる。	
	繁殖	産卵期は 5～6 月頃で, 水田や浅い湿地等の一時的水域に移動し産卵することが知られる。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では, 冬季及び夏季調査において, 遊水地内の水路 (St. 10) で生息が確認された。生息が確認された地点はコンクリート水路内及び湿地環境であり, 泥の堆積した湿地が多く, 水路内にも植物の枯死体が堆積する等本種にとって良好な生息環境が提供されていると考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置, 道路の存在により, 生息環境の一部が改変される。しかし, 工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である河川・湿地(遊水地)等に占める面積割合は 4.3%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は, 一時的な影響が生じると考えられるが, 周囲の経年的な復元に伴い, 徐々に回復するものと考えられる。また, 道路の存在によって消失する河川・湿地(遊水地)等の面積割合は 3.5%とわずかである。 したがって, 本種の主な生息環境である河川・湿地等の環境は周辺に広く残されることから, 直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では, 「11.5 水質」の予測で示すとおり, 工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し, 主な生息環境である河川等へ流入する可能性があるため, 生息環境の変化が生じ, 本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では, 「11.6 地盤」の予測で示すとおり, 道路の存在 (地下式) に伴い, 地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより, 主な生息地である湿地(遊水地)への水の供給が不十分になり, 生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって, 地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)
「川の生物図典」(平成 8 年, 山海堂)]

表 11.8.1-18(21) 重要な動物の予測結果（アユ）

項 目		内 容	 アユ
選定基準		福岡県 RDB（NT）， 福岡市配慮指針 2016（掲載種）	
形態		サケ目 アユ科 全長：約 10～30 cm	
分布		県内に広く分布するが，再生産が確認できる河川は少ない。成長と産卵を河川で，初期生活史の一部を海域で過ごす通し回遊魚である。	
生態	採餌	岩盤や石礫のあるところに好んで定住し，それらの表面の付着藻類を採餌する。この際，櫛状歯のある上下の唇をこすりつけるため，石の表面には独特のハミ跡が残る。	
	繁殖	産卵は下流に移動して行うため，下流域に産卵に適した瀬があることが重要である。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では，春季調査において，宇美川（St.9）で生息が確認された。生息が確認された St.9 は博多湾から縦断方向の連続性が確保されていることから，遡上個体が当該地区を回遊経路及び生息場として利用していることが考えられる。	
予測結果	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では，工事の際には水環境の変化が生じる可能性があるが，本種が確認された箇所は影響範囲外であること，また，主な工事箇所の上流側や影響範囲外にも生息環境は広く分布する。 したがって，生息環境の質的变化が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

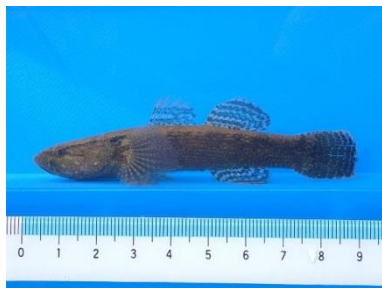
〔出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）〕

表 11.8.1-18 (22) 重要な動物の予測結果（ミナミメダカ）

項 目		内 容	 ミナミメダカ
選定基準		環境省 RL (VU), 福岡県 RDB (NT), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		ダツ目 メダカ科 全長：最大 4 cm	
分布		県内に広く分布する。河川中下流域の植生が豊富なワンド環境やそれに連なる農業用水路, 山間のため池等に生息する。	
生態	採餌	食性は動物プランクトンや植物プランクトンのほか, 小さな落下昆虫等を食う雑食性。	
	繁殖	産卵は早朝に水草等に産みつけられる。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では, 冬季, 春季, 夏季及び秋季調査において, 宇美川 (St. 1, 2, 9) 吉塚新川 (St. 3, 4, 8), 堅粕新川 (St. 5, 6), 蒲生川 (St. 7) と多くの地点で生息が確認された。生息が確認された地点は, 汽水域～淡水であり, 広い範囲を生息域としていることが確認された。確認地点に生えている水際植生や抽水植物は, 本種の隠れ場所や産卵場所となっていると考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置, 道路の存在により, 生息環境の一部が改変される。しかし, 工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である河川・湿地(遊水地)等に占める面積割合は 4.3%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は, 一時的な影響が生じると考えられるが, 周囲の経年的な復元に伴い, 徐々に回復するものと考えられる。また, 道路の存在によって消失する河川・湿地(遊水地)等の面積割合は 3.5%とわずかである。 したがって, 本種の主な生息環境である河川・湿地等の環境は周辺に広く残されることから, 直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では, 「11.5 水質」の予測で示すとおり, 工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し, 主な生息環境である河川等へ流入する可能性があるため, 生息環境の変化が生じ, 本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では, 「11.6 地盤」の予測で示すとおり, 道路の存在(地下式)に伴い, 地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより, 主な生息地である湿地(遊水地)への水の供給が不十分になり, 生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって, 地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」(平成 1 年, 山と溪谷社)]

表 11.8. 1-18 (23) 重要な動物の予測結果（カワアナゴ）

項 目		内 容	 カワアナゴ
選定基準		福岡県 RDB (NT), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		スズキ目 カワアナゴ科 全長：約 25cm	
分布		県内全域に分布する。両側回遊型である。 河川の汽水域から下流域にかけて生息し、泥底より砂底や礫底を好む場合が多い。	
生態	採餌	テトラポッドや倒木の下、根際等にひそみ、夜間に外に出て活動する。動物食である。	
	繁殖	産卵については不明である。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では、冬季、夏季及び秋季調査において、吉塚新川 (St. 4) 及び堅粕新川 (St. 5) で生息が確認された。生息が確認された St. 4 及び St. 5 の底質は砂が主体であるが、本種は河床に沈んだ板の下等から確認された。博多湾から確認地点までは、縦断方向に連続性が確保されていることから、遡上個体が当該地区を回遊経路及び生息場として利用されていることが考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、本種の主な生息環境である河川等の一部が改変されるが、河川横断構造物は設置しないため移動経路は確保される。また、生息環境である河川環境は都市計画対象道路の上下流にも分布する。 したがって、本種の主な生息環境である河川等の環境は周辺に広く残されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、「11.5 水質」の予測で示すとおり、工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し、主な生息環境である河川等へ流入する可能性があるため、生息環境の変化が生じ、本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では、「11.6 地盤」の予測で示すとおり、道路の存在（地下式）に伴い、地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより、主な生息地である湿地（遊水地）への水の供給が不十分になり、生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって、地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」(平成 1 年, 山と溪谷社)]

表 11.8.1-18 (24) 重要な動物の予測結果（ウキゴリ）

項 目		内 容	 ウキゴリ
選定基準		福岡県 RDB (DD), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		スズキ目 ハゼ科 全長：約 13cm	
分布		北海道から種子島・屋久島まで分布する広域分布種で、県内では複数の水系からの採集記録があるものの、その分布は不連続である。河川の汽水域から中流域までの流れの緩やかな淵やワンドに多い。	
生態	採餌	動物食性で河川では水生昆虫や仔稚魚を、湖沼ではエビ類やハゼ類の幼魚を餌としている。	
	繁殖	オスは石や板の下に産卵室を作り、メスを呼び込んで産卵させる。産卵後、オスはメスを追い出し、孵化までの 10 日前後、単独で卵を保護する。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では、春季及び夏季調査において、宇美川 (St.9) で生息が確認された。生息が確認された環境は、St.9 の流れの緩やかな淵であり、ヌマエビやスジエビを捕食していると考えられる。また、底質は砂礫質で、転石が見られないことから、産卵場所には利用されていないと考えられる。	
予測結果	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、工事の際には水環境の変化が生じる可能性があるが、本種が確認された箇所は影響範囲外であること、また、主な工事箇所の上流側や影響範囲外にも生息環境は広く分布する。 したがって、生息環境の質的变化が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年，福岡県)
「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」(平成 1 年，山と溪谷社)]

表 11.8.1-18 (25) 重要な動物の予測結果（ミズゴマツボ）

項 目		内 容	 ミズゴマツボ
選定基準		環境省 RL (VU), 福岡県 RDB (NT), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		盤足目 ミズゴマツボ科 全長：殻長 5.0mm, 貝径 3.0mm	
分布		県内に比較的広く分布している。主に海岸や汽水域近くの池沼, 用水路や河川, そのやや上流の淡水域の泥底に生息する。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	夏季に産卵する。その他の情報については明らかになっていない。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では, 冬季, 夏季及び秋季調査において, 吉塚新川 (St. 3, 4, 8), 堅粕新川 (St. 5) で生息が確認された。生息が確認された St. 4, St. 5 とともに砂泥質の河床であるが, 本種は泥質を好むことから, 砂質よりも泥質が多い範囲を利用していることが考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置, 道路の存在により, 生息環境の一部が改変される。しかし, 工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である河川・湿地(遊水地)等に占める面積割合は 4.3%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は, 一時的な影響が生じると考えられるが, 周囲の経年的な復元に伴い, 徐々に回復するものと考えられる。また, 道路の存在によって消失する河川・湿地(遊水地)等の面積割合は 3.5%とわずかである。 したがって, 本種の主な生息環境である河川・湿地等の環境は周辺に広く残されることから, 直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では, 「11.5 水質」の予測で示すとおり, 工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し, 主な生息環境である河川等へ流入する可能性があるため, 生息環境の変化が生じ, 本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では, 「11.6 地盤」の予測で示すとおり, 道路の存在(地下式)に伴い, 地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより, 主な生息地である湿地(遊水地)への水の供給が不十分になり, 生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって, 地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

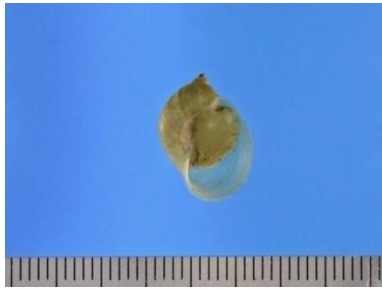
[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)
「ピーシーズ生態写真図鑑シリーズ 1 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類」(平成 15 年, (株)ピーシーズ)]
「日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック 2014 貝類」
(環境省, 平成 26 年)

表 11.8.1-18 (26) 重要な動物の予測結果（コシダカヒメモノアラガイ）

項 目		内 容	 コシダカヒメモノアラガイ
選定基準		環境省 RL (DD), 福岡県 RDB (DD), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		基眼目 モノアラガイ科 全長：約 4.0mm	
分布		県内に広く分布するが、記録はやや散見的で他のモノアラガイ類に比べると生息密度も低い。水田に分布し、主に水田の畦や湿地やその水際に生息する。泥のくぼみや草本類の根元、湿ったコンクリート壁等に付着する。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。	
予測地域における 確認状況		現地調査結果では、冬季、春季及び秋季調査において、堅粕新川 (St.6) 及び蒲生川 (St.7) で生息が確認された。生息が確認された St.6 は3面張り水路であるが、河岸から植生が垂れ下がっており、そのような植物の影を生息場として利用していることが考えられる。St.7 は植生が豊富であり、本種の生息場として適していると考えられる。	
予測 結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、生息環境の一部が改変される。しかし、工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である河川・湿地(遊水地)等に占める面積割合は4.3%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は、一時的な影響が生じると考えられるが、周囲の経年的な復元に伴い、徐々に回復するものと考えられる。また、道路の存在によって消失する河川・湿地(遊水地)等の面積割合は3.5%とわずかである。 したがって、本種の主な生息環境である河川・湿地等の環境は周辺に広く残されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の 質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、「11.5 水質」の予測で示すとおり、工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し、主な生息環境である河川等へ流入する可能性があるため、生息環境の変化が生じ、本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の 変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では、「11.6 地盤」の予測で示すとおり、道路の存在(地下式)に伴い、地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより、主な生息地である湿地(遊水地)への水の供給が不十分になり、生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって、地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚
類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)
「ピーシーズ生態写真図鑑シリーズ 2 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全
国の淡水貝類」(平成 16 年, (株)ピーシーズ)]

表 11.8.1-18 (27) 重要な動物の予測結果（モノアラガイ）

項 目		内 容	 モノアラガイ
選定基準		環境省 RL (NT)，福岡県 RDB (NT)， 福岡市配慮指針 2016（掲載種）	
形態		基眼目 モノアラガイ科 全長：約 20mm	
分布		県内での分布記録は比較的多いが，河川改修や圃場整備等により減少していると考えられる。池沼や水田，川の淀み等の水草や礫に付着している。底泥表面でみられることもある。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	産卵期にはゼラチン質の卵塊を水草や礫に産み付ける。	
予測地域における 確認状況		現地調査結果では，冬季，春季，夏季及び秋季調査において，堅粕新川（St. 5，6），宇美川（St. 9）で生息が確認された。生息が確認された St. 5，St. 6，St. 9 に存在する水際植生を主な生息場として利用していることが考えられる。	
予測 結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置，道路の存在により，生息環境の一部が改変される。しかし，工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である河川・湿地（遊水地）等に占める面積割合は 4.3％と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は，一時的な影響が生じると考えられるが，周囲の経年的な復元に伴い，徐々に回復するものと考えられる。また，道路の存在によって消失する河川・湿地（遊水地）等の面積割合は 3.5％とわずかである。 したがって，本種の主な生息環境である河川・湿地等の環境は周辺に広く残されることから，直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の 質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では，「11.5 水質」の予測で示すとおり，工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し，主な生息環境である河川等へ流入する可能性があるため，生息環境の変化が生じ，本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年，福岡県)
「ピーシーズ生態写真図鑑シリーズ 1 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類」(平成 15 年，(株)ピーシーズ)]

表 11.8.1-18(28) 重要な動物の予測結果（ナガオカモノアラガイ）

項 目		内 容	 ナガオカモノアラガイ
選定基準		環境省 RL (NT), 福岡県 RDB (VU), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		異鰓目 オカモノアラガイ科 全長：最大 15mm	
分布		県内での山地は限定的で、個体数も少ない。 河川や湿地等水際植生の近くに生息する。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。	
予測地域における 確認状況		現地調査結果では、夏季及び秋季調査において、蒲生川 (St. 7) 及び遊水地内の水路 (St. 10) で生息が確認された。生息が確認された St. 7 及び St. 10 に存在する水際植生を主な生息場として利用していることが考えられる。	
予測 結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、生息環境の一部が改変される。しかし、工事施工ヤード等の設置範囲を含めた改変区域が本種の主な生息環境である河川・湿地(遊水地)等に占める面積割合は 4.3%と小さい。工事施工ヤード等の設置箇所は、一時的な影響が生じると考えられるが、周囲の経年的な復元に伴い、徐々に回復するものと考えられる。また、道路の存在によって消失する河川・湿地(遊水地)等の面積割合は 3.5%とわずかである。 したがって、本種の主な生息環境である河川・湿地等の環境は周辺に広く残されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の 質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、「11.5 水質」の予測で示すとおり、工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し、主な生息環境である河川等へ流入する可能性があるため、生息環境の変化が生じ、本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の 変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では、「11.6 地盤」の予測で示すとおり、道路の存在（地下式）に伴い、地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより、主な生息地である湿地(遊水地)への水の供給が不十分になり、生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって、地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)]

表 11. 8. 1-18 (29) 重要な動物の予測結果（ヤマトシジミ）

項 目		内 容	 ヤマトシジミ
選定基準		環境省 RL (NT), 福岡県 RDB (NT), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		マルスダレガイ目 シジミ科 全長：約 25mm	
分布		日本全国に分布し，県内では遠賀川水系， 山国川水系，筑後川水系，矢部川水系等に生 息している。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。	
予測地域における 確認状況		現地調査結果では，春季，夏季及び秋季調査において，宇美川（St. 1, 2）及 び吉塚新川（St. 3）で生息が確認された。生息が確認された地点は汽水域であり， 干潮時には砂州が広がる。本種はこのような砂質の河床を生息基盤として利用し ていることが考えられる。	
予測 結果	生息環境の 質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では，工事の際には水環境の変化が生 じる可能性があるが，本種が確認された箇所は影響範囲外であること，また，主 な工事箇所の上流側や影響範囲外にも生息環境は広く分布する。 したがって，生息環境の質的变化が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと 予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚
類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）]

表 11.8.1-18(30) 重要な動物の予測結果（イトメ）

項 目		内 容	 イトメ
選定基準		環境省海洋生物 RL (NT), 福岡県 RDB (DD), 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		サシバゴカイ目 ゴカイ科 全長：体長 25cm (生殖型バチの体長 6 cm)	
分布		県内では、長井浜（行橋市）、曾根干潟、大牟田川等に生息している。河川汽水域の高潮帯（ヨシ原等）の砂泥底に巣穴を掘って生息する。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	繁殖期は 11 月～12 月で、新月後または満月後の数日間にわたって生殖群泳する。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では、冬季、夏季及び秋季調査において、宇美川（St. 1）、吉塚新川（St. 3, 4, 8）で生息が確認された。生息が確認された地点はいずれも感潮域であり、河床は砂泥質になっている。本種はそのような砂泥質の河床を生息基盤として利用しているものと考えられる。	
予測結果	直接改変	工事施工ヤード等の設置、道路の存在により、本種の主な生息環境である河川等の一部が改変されるが、河川横断構造物は設置しないため移動経路は確保される。また、生息環境である河川環境は都市計画対象道路の上下流にも分布する。したがって、本種の主な生息環境である河川等の環境は周辺に広く残されることから、直接改変が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	
	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、「11.5 水質」の予測で示すとおり、工事の実施により出現する裸地等から降雨により濁水が発生し、主な生息環境である河川等へ流入する可能性があるため、生息環境の変化が生じ、本種の生息に影響が及ぶと予測される。	
	地下水位の変動	事業実施区域が生息地と近接する場所では、「11.6 地盤」の予測で示すとおり、道路の存在（地下式）に伴い、地下水位の変動が生じる可能性がある。地下水位が変動することにより、主な生息地である湿地（遊水地）への水の供給が不十分になり、生息環境の変化が生じる可能性がある。 したがって、地下水位の変動は本種の生息に影響が及ぶと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」（平成 26 年，福岡県）
「環形動物 多毛類」（平成 8 年，（株）生物研究社）]

表 11.8.1-18(31) 重要な動物の予測結果（ベンケイガニ）

項 目		内 容	
選定基準		環境省海洋生物 RL (NT)，福岡県 RDB (NT)， 福岡市配慮指針 2016 (掲載種)	
形態		エビ目 ベンケイガニ科 全長：甲長約 32cm	
分布		河川の中・下流域や海岸近くの草地，土手， 湿地帯，田の畔等に巣穴を掘って生息する。	
			
		ベンケイガニ	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	夏には産卵のために河川や海岸に移動する。	
予測地域における 確認状況		現地調査結果では，春季，夏季及び秋季調査において，宇美川 (St. 1，2) で 生息が確認された。本種はヨシ原に生息する傾向があり，St. 2 においては，こ のようなヨシ原環境を生息場として利用していることが考えられる。St. 1 には ヨシ原環境はないが，転石環境を主な生息場としていると考えられる。	
予測 結果	生息環境の 質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では，工事の際には水環境の変化が生 じる可能性があるが，本種が確認された箇所は影響範囲外であること，また，主 な工事箇所の上流側や影響範囲外にも生息環境は広く分布する。 したがって，生息環境の質的变化が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと 予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)
「日本産淡水性・汽水性甲殻類 102 種 日本の淡水性エビ・カニ」
(平成 26 年, 誠文堂新光社)]

表 11. 8. 1-18(32) 重要な動物の予測結果（台湾ヒライソモドキ）

項 目		内 容	 台湾ヒライソモドキ
選定基準		環境省海洋生物 RL (NT), 福岡県 RDB (DD)	
形態		エビ目 モクズガニ科 全長：甲幅 11mm	
分布		淡水の影響が強い汽水域上流部の転石潮間帯中部付近を主な生息場所とする。	
生態	採餌	餌に関する情報については明らかとなっていない。	
	繁殖	繁殖に関する情報については明らかとなっていない。	
予測地域における確認状況		現地調査結果では、春季及び夏季調査において宇美川 (St. 1) で生息が確認された。本種は転石潮間帯付近を主な生息場とする。St. 1 には淡水流入付近に転石が点在する箇所があり、このような環境を生息場として利用していることが考えられる。	
予測結果	生息環境の質的变化	事業実施区域が生息環境と近接する場所では、工事の際には水環境の変化が生じる可能性があるが、本種が確認された箇所は影響範囲外であること、また、主な工事箇所の上流側や影響範囲外にも生息環境は広く分布する。 したがって、生息環境の質的变化が本種の生息に及ぼす影響は極めて小さいと予測される。	

[出典：「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2014 -爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等-」(平成 26 年, 福岡県)]

(3) 環境保全措置の検討

1) 保全対象

動物の重要な種の予測結果の総括は、表 11.8.1-19 に示すとおりである。

事業の実施により生息環境に影響が生じる可能性があるとして予測された重要な種は、オモナガコミズムシ、カンムリセスジゲンゴロウ、ナガマルチビゲンゴロウ、コガムシ、チビマルガムシ、ニホンウナギ、ドジョウ、ミナミメダカ、カワアナゴ、ミズゴマツボ、コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、ナガオカモノアラガイ、イトメの 14 種である。

よって、これらの 14 種を保全対象とする。

表 11.8.1-19(1) 動物の重要種及び注目すべき生息地の予測結果総括表

No.	分類	種和名	予測結果		保全対象	備考
			工事の実施	土地又は工作物の存在及び供用		
1	哺乳類	イタチ属 (ニホンイタチ)	B	B		
2	鳥類	ササゴイ	B	B		
3		ミサゴ	B	B		
4		ハヤブサ	B	B		
5		ヒクイナ	B	B		
6		オオヨシキリ	B	B		
7		コサメビタキ	C	C		
8	爬虫類	ニホンスッポン	B	—		
9	昆虫類	オモナガコミズムシ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
10		スゲドクガ	B	B		
11		カンムリセスジゲンゴロウ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
12		ナガマルチビゲンゴロウ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
13		コガムシ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
14		チビマルガムシ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
15		オオサカスジコガネ	B	B		
16		ヤマトアシナガバチ	B	B		
17		ネジロハキリバチ	B	B		
18		ムナカタハキリバチ 本土亜種	C	C		

注 1) 予測結果

A：重要な種の生息に影響が生じる可能性がある。

B：重要な種の生息に及ぼす影響は極めて小さい。

C：重要な種の生息に及ぼす影響はない。

—：影響要因に該当しない。

注 2) 工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行）

注 3) 土地または工作物の存在及び供用（道路の存在）

表 11.8. 1-19(2) 動物の重要種及び注目すべき生息地の予測結果総括表

No.	分類	種和名	予測結果		保全 対象	備考
			工事の実施	土地又は工作物の 存在及び供用		
19	魚類	ニホンウナギ	A	B	○	生息環境の質的变化
20		ドジョウ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
21		アユ	B	—		
22		ミナミメダカ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
23		カワアナゴ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
24		ウキゴリ	B	—		
25	底生 動物	ミズゴマツボ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
26		コシダカヒメモノアラガイ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
27		モノアラガイ	A	B	○	生息環境の質的变化
28		ナガオカモノアラガイ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
29		ヤマトシジミ	B	—		
30		イトメ	A	A	○	生息環境の質的变化 地下水位の変動
31		ベンケイガニ	B	—		
32		タイワンヒライソモドキ	B	—		

注 1) 予測結果

A：重要な種の生息に影響が生じる可能性がある。

B：重要な種の生息に及ぼす影響は極めて小さい。

C：重要な種の生息に及ぼす影響はない。

—：影響要因に該当しない。

注 2) 工事の実施（建設機械の稼働，資材及び機械の運搬に用いる車両の運行）

注 3) 土地または工作物の存在及び供用（道路の存在）

2) 環境保全措置の検討の状況

動物の生息地に間接的な影響を与える場合があると考えられるため、事業者の実行可能な範囲内で、環境影響をできる限り回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。

動物の環境保全措置を検討するにあたっては、事業特性や地域特性を踏まえ、環境保全措置の方法として表 11.8.1-20 に示す3案の適用性を考えた。効果の確実性等を検討した結果、「濁水流出の低減」、「地下水の保全」の2案の環境保全措置を採用する。

表 11.8.1-20 工事の実施及び道路の存在に係る動物の環境保全措置の検討の状況

環境保全措置	環境保全措置の効果	環境保全措置の検討結果
照明器具の改良 (光が道路外に漏れない灯具や誘因の少ない照明の採用)	夜間の生息環境を保全することにより、繁殖阻害、生息環境に対する影響や光に敏感な種への影響を低減できる。	夜間照明により影響が及ぶ種は存在しないことから、本環境保全措置は採用しない。
濁水流出の低減	施工時における仮締切り、切回し水路、沈砂池等の設置等により、河川や湿地、水路等に生息する昆虫類、魚類、底生動物への影響を低減することができる。	施工時における仮締切り、切回し水路、沈砂池、濁水処理施設等の設置等により、濁水の流出を低減できることから、本環境保全措置を採用する。
地下水の保全 (地下水流路の確保)	水環境(地下水、表流水等を含む)の変化に伴う生息環境の変化を低減できる。	水環境(地下水、表流水等を含む)の変化に伴う生息環境の変化を低減できることから、本環境保全措置を採用する。

3) 検討結果の整理

環境保全措置の検討結果については、表 11.8.1-21 に示すとおりであり、「濁水流出の低減」、「地下水の保全」を採用することとした。

表 11.8.1-21 (1) 環境保全措置の検討結果

実施主体		福岡市，福岡北九州高速道路公社
保全対象		(昆 虫 類) オモナガコミズムシ，カンムリセスジゲンゴロウ， ナガマルチビゲンゴロウ，コガムシ，チビマルガムシ (魚 類) ニホンウナギ，ドジョウ，ミナミメダカ，カワアナゴ (底生動物) ミズゴマツボ，コシダカヒメモノアラガイ， モノアラガイ，ナガオカモノアラガイ，イトメ
実施内容	種類	「濁水流出の低減」
	位置	確認された河川や湿地，水路等周辺に講じる。
保全措置の効果		施工時における仮締切り，切回し水路，沈砂池，濁水処理施設等の設置等により，河川や湿地，水路等に生息する昆虫類，魚類，底生動物への影響を低減することができる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		なし

表 11.8.1-21 (2) 環境保全措置の検討結果

実施主体		福岡市，福岡北九州高速道路公社
保全対象		(昆 虫 類) オモナガコミズムシ，カンムリセスジゲンゴロウ， ナガマルチビゲンゴロウ，コガムシ，チビマルガムシ (魚 類) ドジョウ，ミナミメダカ，カワアナゴ (底生動物) ミズゴマツボ，コシダカヒメモノアラガイ， ナガオカモノアラガイ，イトメ
実施内容	種類	「地下水の保全(地下水流路の確保)」
	位置	確認された湿地周辺に講じる。
保全措置の効果		水環境(地下水，表流水等を含む)の変化に伴う生息環境の変化を低減できる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		なし

(4) 事後調査

1) 事後調査の必要性

予測手法は、重要な種の生息環境又は注目すべき生息地の消失・縮小、移動阻害、生息環境の質的变化等の影響について、事業実施による改変区域との重ね合わせ、科学的知見、類似事例を参考に行っていることから、予測の不確実性は小さいと考えられる。

また、環境保全措置として実施する濁水流出の低減及び地下水の保全は、類似事例等から効果に関する知見が十分にあると判断でき、効果の不確実性は小さい。しかし、環境保全措置として採用する地下水の保全（地下水流路の確保）の実施にあたっては、地下水位の変動を継続的に監視し、環境保全措置の規模や具体的な工法等を詳細に検討する必要があるため、工事の実施中において環境保全措置の内容をより詳細なものにする必要があると認められることから、表 11.8.1-22 に示す事後調査を実施する。

表 11.8.1-22 事後調査の内容

調査項目	調査内容
地下水の水位	○調査時期 工事中（土地の改変前を含む）、道路構造物設置から一定期間 ○調査地点 対象道路の掘割区間、トンネル区間 ○調査方法 地下水位観測井戸による地下水位の観測等による方法

2) 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応

事前に予測し得ない環境上の著しい影響が生じた場合は、事業者が関係機関と協議し、専門家の意見及び指導を得ながら、必要に応じて追加調査等適切な措置を講じる。

3) 事後調査結果の公表方法

対象事業に係る工事が完了した段階で1回報告書を作成することを基本とし、この場合、当該工事の実施に当たって講じた環境保全措置の効果を確認した上で、その結果を報告書に含めるよう努める。

報告書には、対象事業に関する基礎的な情報（事業名、区域等）、事後調査の項目、手法及び結果、環境保全措置の内容、効果及び不確実性の程度、有識者等の助言を受けた場合はその内容等を記載する。

公表については、原則として事業者が行うことを基本とし、インターネット等適切な方法で行う。

(5) 評価

1) 評価の手法

ア. 環境影響の回避、低減に係る評価

調査及び予測の結果（工事の実施及び道路の存在による動物への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価した。

イ. 国又は地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策との整合性

環境の保全に関する施策との整合性の検討については、「福岡市環境配慮指針（改定版）」における「地域特性別環境配慮事項」の「内陸部（市街住宅地域）」に係る配慮事項のうち、「生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全」や、「事業特性別環境配慮事項」の「道路整備事業」に係る配慮事項のうち、「生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全」と予測結果と比較することにより行った。

2) 評価結果

ア. 環境影響の回避、低減に係る評価

都市計画対象道路は、重要な動物種の保全の観点より自然環境の改変量を極力抑え、切土工等又は既存の工作物の除去、工事施工ヤード及び工事用道路は、都市計画対象道路の区域内を極力利用する計画としている。

また、工事の実施及び道路の存在により生息環境に影響が生じる可能性があるとして予測された14種については、環境保全措置として、濁水流出の低減及び地下水の保全を実施する。なお、地下水の保全は事後調査により、その内容を詳細に検討して実施することとしている。

したがって、環境への影響は事業者の実行可能な範囲内で、回避又は低減が図られているものと評価する。

イ. 国又は地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策との整合性

都市計画対象道路は、「福岡市環境配慮指針（改定版）」における配慮事項に基づき、環境保全措置として、濁水流出の低減を実施する。

以上のことから、環境の保全に関する施策との整合が図られているものと評価する。